



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第72回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 捕手のファウルカップ

秋の練習試合や地区交流戦で、着用を義務付けられているファウルカップ(急所保護防具)をしていない捕手をよく見かけました。

秋は来年に向けて色々なポジションを試したり、実戦でレベルアップを図ったりするシーズンです。捕手の経験がない選手が捕手に起用され、着用義務を知らずにいることもあります。着用するとプレイがしづらいという理由で故意に着用しない選手もいるようです。他の守備位置と違い、投球や打球が当たる可能性が大きい捕手は、ぜひ自覚を持って必ず着用してください。普段の練習からも心がけましょう。

なお、ファウルカップの着用は、高校野球では義務付けられていますので注意してください。(『大会運営上の留意事項』(危険防止)) 選手自身の危険防止はもちろんのこと、負傷による試合の停滞を防ぐことにもつながります。チームとしても着用のための予備のカップやウェアを常備することも検討してほしいです。

なお、打撃時にファウルカップを外す捕手があります。もちろん認められる行為ですが、攻撃を終了し、守備につく際、グラウンド内でズボンを下げてファウルカップを装着しようとするケースが散見されます。そうではなく、一旦ベンチに戻り、ベンチ内で装着し、プロテクター、レガースはグラウンド内で着けるよう心掛けてください。

ルール編 一塁手の触塁プレイ

内野手が打球を処理して一塁へ送球する際に、補球を待つ一塁手がベースを隠すように立っているのを見かけました。打者走者の一塁到達を妨害していると思えませんが…。

本塁上で捕球前の捕手が立つ位置については、かなり徹底されてきました。一方で、一塁手の触塁については普段話題に上がらないせいか、ベースを隠すように立って、送球を待ち構えている選手がいるのも事実です。内野ゴロなどの後に一塁に転送されるプレイ(主に三塁、遊撃方向)で、右投げの一塁手が捕球時に左足を一塁線付近に置いておき、そこから踏み出す行為を見かけます。ベースを隠す意図は無いかもしれませんが、**本塁上のプレイと同じで、送球が逸れるなどプレイの必要が無い限りは走塁線上に立つことは許されません。**また、クロスプレイの際などには、接触や足を踏まれる危険もありますので、走者の妨げにならない箇所に足を置くよう注意が必要です。野球規則 6.01(h)(1)にも、「走塁を妨げられた走者に対してプレイが行われている場合、または打者走者が一塁に触れる前にその走塁を妨げられた場合には、ボールデッドとし、塁上の各走者はオプストラクションがなければ達しただろうと審判員が推定する塁まで、アウトのおそれなく進塁することが許される。」と規定されています。

